名古屋ライトハウス
アイのかけはし
第17号 平成27年1月

発行責任者
社会福祉法人　名古屋ライトハウス
理事長　本間　英典

〒466-0855
名古屋市昭和区川名本町1-2
TEL 052-757-3522
FAX 052-757-3533

あけましておめでとうございます。

あけましておめでとうございます。平成27年初頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。

昨年はＳＴＡＰ細胞の騒動から始まり、ウクライナの紛争、韓国旅客船沈没事故、国内では、広島土砂災害、度重なる台風による被害、御嶽山噴火による痛ましい災害、エボラ出血熱や国内ではデング熱の騒動など、大変なことばかりでしたが、ソチ五輪での日本選手の活躍、ワールドカップブラジル大会の開催、テニスの錦織選手の活躍など良いニュースもありました。また、ノーベル賞は３人の方が物理学賞を受賞され内二人は地元名古屋の大学の先生でしたし、富岡製糸場が世界文化遺産に登録されました。

私たち法人においても、昨年４月より新会計基準に対応した会計システムを導入、人材育成のための新人事考課制度の運用、幹部職員による法人の未来を描き出す「未来プロジェクト」研修の実施などに取り組んでまいりました。

本年４月には介護報酬や障害福祉サービス報酬の見直しが予定されており厳しいものになることが予想されます。また、社会福祉法人の在り方をめぐる議論も活発で、社会貢献事業の具体的な取り組みも求められてくるでしょう。

福祉事業が社会化・一般化する中で、大変厳しく難しい舵取りが必要となりますが、皆様のお力をお借りしながら、一人ひとりの利用者と地域のお役に立てるようまい進します。本年は未年ですが、羊のように穏やかで温かく優しい、そんな1年であることを願います。

本年もよろしくお願い申し上げます。

理事長　本間英典

Vol. 17

年頭のごあいさつ（理事長）…… 1
専務理事あいさつ …… 2
愛盲報恩会贈呈式 …… 3
第三者評価 …… 4
各施設の近況 …… 5～11
光和寮の駅自転車整理等・福祉の店 開催… 12

社会福祉法人
名古屋ライトハウス

専務理事あいさつ

年頭に当たり―社会貢献活動を考える

明けましておめでとうございます。穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

ご承知の通り、2000（平成12）年の介護保険制度の創設、2003（平成15）年の障害者支援費制度の実施により、それまでの措置費制度から契約による報酬支払い方式に移行しました。同時に社会福祉の市場化を進めるため、多様な事業者の参入が図られました。

こうした変革を背景に、社会福祉法人の存在意義やあり方等についての議論が続けられ、その集大成として昨年厚生労働省に設置された「社会福祉法人の在り方等の検討会」の報告書により、課題や改革の方向性が示されました。

透明性の確保と情報開示、経営管理体制の強化、監査の強化、社会貢献活動の義務化等であります。まるで社会福祉法人は杜撰な経営体制にあり、何かよからぬことをやっているのではないかのごとくであります。

情報開示や管理体制、監査の強化については至極当然でありますが、社会貢献活動の義務化については立ち止まって考えざるを得ません。社会貢献活動は様々な恩恵に対し、何らかの形で報いるために自発的に行うものであり、義務化すべきことではないと考えます。

とはいえ検討会の指摘の通り、多くの社会福祉法人が社会貢献活動に前向きに取り組めば、制度外の幅広い福祉ニーズに応えることができ、よりよい地域社会の形成に結びつくことは間違いありません。私どもも、携わる一人ひとりに理解を求め、英知を結集、持続的、効果的な活動ができるよう努めてまいる所存であります。

なお、当法人は“愛盲報恩会”という基金を設け、社会貢献活動として視覚障害者の地域団体活動への支援、視覚障害者当事者で、地域団体活動、職業・福祉・教育・文化・スポーツ等の分野で活躍、著しい功績がある方の顕彰等の活動をこれまで行ってきました。

本年も変わらぬご指導をよろしくお願いいたします。皆様のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

専務理事　近藤正臣

愛盲報恩会
第９回 近藤正秋賞・片岡好亀賞 贈呈式報告

11月２日（日）、名古屋盲人情報文化センターにおいて愛盲報恩会第９回近藤正秋賞・片岡好亀賞の贈呈式が愛盲報恩会委員、名古屋ライトハウス役職者･職員など関係者約40名の参加の下、開催されました。

近藤正秋賞は視覚障害者の地域団体活動・職業活動・政治活動などにおいて著しい功績があるとともに、今後の活躍が期待される人に贈られ、日本ライトハウスの竹下亘氏の推薦により、株式会社アイフレンズ代表取締役の、亀甲孝一氏が受賞されました。全視協「点字民報」編集長、大阪視覚障害者の生活を守る会支部長としての活躍、交通バリアフリーなどの地域活動、視覚障害関連機器販売店アイフレンズを創業し活字文書朗読システム「とうくんライト」の開発販売など視覚障害者の生活の質の向上に大きく貢献していることが評価されました。

片岡好亀賞は視覚障害者の福祉・教育・文化・スポーツ等の分野で活躍し視覚障害者の社会的進歩に著しい功績があるとともに、今後の活躍が期待される人に贈られ、四天王寺大学の慎英弘（シン、ヨンホン）氏の推薦により相模女子大学非常勤講師の堀越喜晴氏が受賞されました。ＮＨＫラジオ「視覚障害者のみなさんへ」の８年間の出演、点字毎日「ちょいと指触り」の連載並びに著書を通して、視覚障害者の課題を社会に対して発信し続けていることが評価されました。

中部地域（愛知・岐阜・三重・静岡の４県）で地域団体活動で著しい功績のある視覚障害者に贈られる地域活動特別賞には、高橋嘉範氏（名古屋市視覚障害者協会）推薦による橋井正喜氏（名古屋市視覚障害者協会会長）が受賞されました。長年にわたる名古屋市視覚障害者協会の会長・事務局長としての活動実績、ならびに名古屋市身体障害者福祉連合会常務理事、日本盲人会連合理事としての活動など、地域の障害者運動のリーダーとして活動し続けていることが評価されました。

贈呈式では、本間理事長よりクリスタルでできた表彰状と副賞が渡され、その後、各推薦者より推薦の言葉を頂戴した後、各受賞者より記念スピーチが行われました。

亀甲孝一氏は、「背中を押してくれる人がいて、背伸びしてやってきて自分の今がある」と、一緒にご来館いただいた奥様をはじめ多くの背中を押してくれた方々への感謝を述べられました。また、堀越喜晴氏は、「障害は個性であり恵みである」と語られ障害を自分の武器にするということをユーモアを交えて語られました。橋井正喜氏は、42歳から始めた地域活動について語られ、「地域のことは地域で行うことが必要である」と結ばれました。

受賞者の皆様のますますのご活躍を祈念するとともに、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

当法人では初めて!

福祉サービス第三者評価の受審

受審について

戸田川グリーンヴィレッジが開所して４年目を迎えるにあたり、自分たちの提供しているサービス内容の見直しのため、年度当初の事業計画に従い(株)中部評価センターによる第三者評価を10月24日に受けました。

福祉サービス第三者評価事業とは、事業所が提供するサービスの質を職員、利用者以外の第三者機関が専門的かつ客観的な立場から評価をし、サービスの質の向上に結び付けることを目的にしています。評価内容は公表され、事業の透明性を確保し、サービスの信頼性向上に繋がります。

評価実施までの準備として

①自己評価の基準統一のため職員対象の説明会を３回に分けて全職員に実施（７，８月）
②評価機関担当者が利用者に聴き取り調査の実施（９月）
③家族へのアンケート調査（９，10月）、職員へのアンケート調査（９，10月）の実施
④職員全体で作成した自己評価表の作成（10月）を行い受審に備えました。

第三者評価を受審してみて

評価は各担当職員からの聴き取りや書類の確認を中心に自己評価を確認していきました。

重視されたポイントとしては以下の３点です。

①計画やマニュアル、業務の仕組みが整っているかだけではなく、効果的な運用がなされているかの「妥当性の評価」。
②実行したことを振り返り次のプランに活かすことができているかの「ＰＤＣＡサイクル」が循環しているか。
③理念・目的を明文化し、全体で共有することの必要性。

受審日の講評での改善項目としては、マニュアルが整備途上であり、一元管理ができていないことや、個々の取り組みを何のために行なうかの職員間で共通認識を持つことの徹底が必要との指摘をいただきました。優れていた点ではＩＳＯの思想が流れ、理念の構築や中長期、単年度行動計画が整備され、毎年の満足度調査等で利用者・家族からの聴き取りがしっかりされＰＤＣＡサイクルが動いていることや、地域やボランティアとの交流、職員のあいさつについては評価いただきました。

審査の結果は平成27年２月頃に伝えられますが、結果をきちんと職員・利用者で検証・共有して公表し、来年度の事業計画や業務改善に活かしサービスの向上に繋げていきます。

さらに今後、法人全体での受審につながっていくきっかけになればと思っています。

光　和　寮

2015年の新春を迎えて

2015年の新春を迎えて、みなさまあけましておめでとうございます。

光和寮は昨年の秋から冬にかけて本当に充実していました。

まず、「焼きいもづくり体験」。さつまいもを焦げないように濡れた新聞紙でつつみ、アルミホイルで巻いて、バーベキューコンロの炭火で焼き、みんなで食べました。自分で焼いたいもはホクホクしてとても甘く、みんな大満足でした。

そして、今回で18回目を迎える「光和寮と地域交流フェスティバル」を、昨年11月８日土曜日に開催しました。

人気のテレビアニメの妖怪ウォッチから「みんなで楽しむニャン」をメインテーマにして、メインイベントは妖怪体操コンテストを行いました。このコンテストには地域の子どもたちが大勢参加され得意の踊りを披露してくださいました。そして皆さん「うまい！」。それもそのはず、この妖怪体操は区民まつりなどで披露できるように熱心に練習をしているとのこと。記念に地域のお母さんたち手作りの妖怪のお面までいただきました。

また模擬店は地域の方の得意なみたらし、やきそば、ぜんざい、フランクフルト。そのほか外部の施設や移動販売車まで呼んで前回よりグレードアップ。

さらに大人向けにジャズピアニストによるライブ演奏。これにはジャズ好きな地域のお母さんが思わず模擬店のテントから飛び出して踊りだすなど大盛り上がりでした。

最後はもう恒例の大抽選会。後方からはステージが見えない程の人だかりで大盛況の内に終えることができました。今後も、地域との交流を深めて協力し合える関係を築いていきたいと思います。

明　和　寮

明和寮のブログ「ありがとうのたまて箱」

明和寮のブログ「ありがとうのたまて箱」は、社会貢献科のたちあがりとともに、２年半前に始まりました。「明和寮の活動を、幅広く皆様に知っていただけるように」との気持ちを込め、利用されている方がブログを書き、アップの作業まで行っています。いただけるコメントや、閲覧数、施設見学者の方から「ブログ、知っていますよ」とお声かけをいただき、少しずつですが皆様との繋がりを実感しています。

９月24日にブログの更新が、100回となりました。明和寮を知っていただくことを目的として始めましたが、私たちにとってはアルバムのような存在でもあります。特に親和会旅行や、ライトハウス福祉まつりなどの行事を紹介した内容は、笑顔でいきいきとした表情の写真が多く、読み返すと２年半の軌跡を感じられ、なかなか良いものです。

今後も明和寮と社会との架け橋として、200回更新を目指して続けていきます。

港区障害者基幹相談支援センター

平成26年４月１日、名古屋市の委託により、『港区障害者基幹相談支援センター』を港区役所駅横に開設いたしました。このセンターは、昨年度まで運営してきた「港区障害者地域生活支援センター」を再編したもので、港区の福祉活動にとってより有効な地域資源となることを目的に、社会福祉法人名古屋ライトハウス、特定非営利活動法人まちかどサポートセンターのコンソーシアム（共同事業体）により運営を行っています。障がいの種別、手帳の有無に関わらず、子どもから大人まで、障がいのある方やご家族等を対象とした総合的・専門的な相談窓口として月間250件を超える相談に対応しています。

併せて、精神障がいのある方が、創作的活動や社会との交流等を行う場所として精神障害者地域活動支援事業所「地域活動支援センターかもめくらぶ」を築地口駅そばに開設しました。２つのセンターともに地下鉄最寄駅より徒歩１分と大変利便性のよい場所となりますので、みなさまお気軽にお立ち寄りいただきたいと思います。

港ワークキャンパス

創業時からの歴史を誇る　金属工場
全国から好評の保存食「パンですよ!!」
フレキシブルに未来を創造するフレッシュな工房

今年もワークキャンパスにご注目ください★

無地缶が売れました

新たな販路を求めるブリキ缶
☆ ビジネス商談会での異業種への商品紹介を通して新たなチャンスを狙う
☆ 4年の歳月をかけた企画缶の市場投入
出荷状況はうなぎのぼりです

接着剤の容器で売れています

パンですよ!!は

2年の研究開発の末
あんこ味、いも味の
製品化に成功しました
近日中に
市場へ投入します

毎年、多くの新人選手を迎えて盛り上がる交流会です

信頼する職員たちの
活躍が楽しみな施設長
野々下哲也

緑　風

緑風の新しい作業を紹介します

緑風の就労部門では、主に「清掃用品の組立や梱包作業」「ＤＭ等チラシ作業」「洗濯もの畳み作業」「各種アセンブリ作業」を行っていますが、多様な利用者像を背景に、既存の作業とは趣の違う作業を取り入れようと活動を進めています。

そのひとつが“下請け作業からの脱却”です。

今回はそんな新たなるチャレンジを紹介します。

新規作業第一弾！ 清掃請け負い！

緑風のお隣さん「名古屋東部地域療育センター」での清掃作業を開始しました。６月のセンター開設当初からお話を頂いていたのですが、ようやく体制も整って９月から現地実習を重ねてきました。

職員も利用者もまだまだ修行中ですが、これから清掃のプロを目指して頑張ります！

↑療育センター

「緊張するな～」

「そこやって、ここやって…」

「綺麗になったかチェック！」

新規作業第二弾！ 園芸作業！

緑風では職員Ｋさん提供のイチゴ苗を増やして販売しています。

苗ばかりではなくプランターも用意しました。まだまだ就労の作業としては確立できていませんが、11月からは東山植物園での継続的な花壇整備にも参加していきます。

緑豊かな緑風ならではの園芸作業に乞うご期待！

↑目標

「イチゴは浅く植えるんです」

「こんなに増えましたぁ♪」

「いかがですか w(^o^)w」

戸田川グリーンヴィレッジ

戸田川秋祭り

秋祭り実行委員長　二村　賢

平成26年度の秋祭りは～おもてなし～をテーマに行いました！利用者・職員が準備段階から協力し合い温かい雰囲気の祭りを作り上げることができました。

企画も好評でした。施設の厨房が用意した食事はほぼ完売､地域向けの出店（クレープ）は行列ができる程でした。通所部が作りあげたゲーム各種（お菓子の掴みどり等）も好評でした。また、催し物は演歌歌手によるコンサート・利用者職員共同による仮装大会・そして最後は「戸田川48（職員)」による「恋するフォーチュンクッキー」のダンス映像を披露、職員全員が参加して作り上げた映像作品に皆感動していました。利用者・職員・ボランティアさんの協力で最高の一日になりました。

準備に大変な時期もありましたが、楽しみながら進めることができました。最後に「今年の秋祭り良かったね」「楽しかった」という声を多数聞けたので、実行委員冥利に尽きるなと思いました。来年度も開催しますので、是非足を運んでください！！

日帰り旅行企画

桂川　恵輔

戸田川グリーンヴィレッジでは開所以降、外出企画としてさまざまなプランを考え利用者と外出を行なってきました。その中で「他職種の職員とも外出したい」「数時間から半日の外出ではなく半日から１日の外出をしたい」との意見が多数寄せられました。これをきっかけに日帰り旅行企画が発足されました。発足後、いろいろな取り決めやどこに行くのか、利用者・職員の人数等を約１年かけて準備してきました。

そしてついに昨年10月、お試し日帰り旅行として利用者６名、職員６名、計12名の大所帯でなばなの里に行きました。当日は、お花畑を散策したり昼食を楽しんだりと皆さん笑顔や笑い声が溢れていました。日帰り旅行後に利用者アンケートも行い、大半の方が「楽しかった」「また行きたい」と言ってくれましたが、課題も見えてきました。

今後の課題は、細かいマニュアルの作成です。また利用者アンケートで出された野球観戦やＢＢＱ、大阪散策に行きたいなどの意見を検討し、利用者が思いっきり楽しめリフレッシュできる日帰り旅行にしていきたいと思っています。

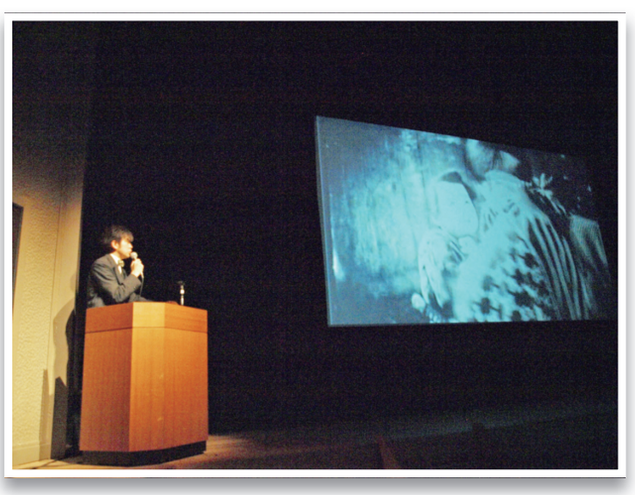
名古屋盲人情報文化センター

○祝・みよまい会結成10周年～記念行事開催！

６月15日（日）、シーンボイスガイド付き映画上映会でおなじみのみよまい会が、港文化小劇場にて結成10周年の記念行事を開催しました。

■第１部

メンバーが壇上に立ち、10年を振り返るスライドの上映。事前に録音しておいたコメントをバックに、懐かしのシーンが流れる。特に「おくりびと」ハイライトシーンのライブ上映は圧巻！一瞬で映画に引き込まれ、思わず感涙…



■第２部

「瞼の母」の上映。黒のフロックコートを羽織り、35歳の活弁士・坂本頼光氏が登壇。８千人いた弁士が今は全国でわずか10人…という挨拶から、見た目と裏腹に雰囲気のある声で観客を魅了。登場人物の声色を自由に操り、一人三役をこなした。83年前の作品が現代に蘇り、あっという間の１時間…。

昨年、「パチンコ福祉応援賞」を受賞し10周年の記念行事開催の機運が高まりましたが、活弁士による上映会が確定したのは、わずか２か月前のことでした。準備も当日もメンバーは大わらわでしたが、200人を超すお客さんが詰めかけ、みなが大満足の記念行事となりました。

○読書好き集まれ！交流会「本のトビラ」開催

９月８日(月)、初の試みとして心に残る１冊、今イチオシの著者など、各自のお勧め本を持ち寄り「読書」について語らうという交流会を開催しました。当日参加は利用者10名、ボランティア20名でしたが、お勧め本の情報は56名から寄せられました。各グループ盛り上がり、互いの声が聞きとれないほどの賑やかさで交流会は盛況の内に終了。推薦文付きのお勧め本情報は後日、目録にまとめ全員にプレゼントしました。

瀬古マザー園

新年あけましておめでとうございます。旧年中は皆様にひとかたならぬご支援をいただき、誠にありがとうございました。

私ども高齢者施設を取り巻く環境は厳しさを増しておりますが、施設を利用される方々に“安心・安全”を提供できるよう職員一丸となって努力してまいりますので、今後とも皆様の変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

園長　三宅　均

○ 施設の状況（夏から秋にかけて“今年も恒例の２つの行事”）

今号では、夏から秋にかけてマザー園で実施した恒例の２つの行事の様子をお伝えします。

まず１つ目は、敬老のお祝いとして『敬老祝賀会』を９月14日（日）に開催しました。特養では、ご家族をお招きし、利用者と一緒にお食事を召し上がっていただきました。ご家族と過ごす利用者は、普段と違った笑顔がいっぱいで、ご家族の大切さを改めて感じました。一方、盲養護では、地域の子ども会と音楽交流会を行い、15名の利用者がハンドベル演奏を披露。ハンドベルの音やタイミングを全て覚えられ、曲目の演奏をし、演奏後には、大きな歓声と拍手が起こりました。演奏した利用者は達成感でいっぱいの表情をされていました。

２つ目は、地域の皆様との交流を図ることを目的とした『ふれあいまつり』を11月2日（日）に開催しました。前日は１日中雨が降り、当日も雨が心配されましたが、日頃の行いが良かったためか、曇天ながらもなんとか屋外で開催できました。

今回は、節目の10回目。300名を超える多くの皆様が来場され、飲食やゲーム、利用者の皆様にも各ブースや昼食を楽しんでいただき、有意義なイベントとなりました。今回は、２つの演奏会、キッズダンサーの踊りがあり、また屋台の品が例年より早く品切れになるなど、大盛況で終わりました。また多くのボランティアさんのご協力もいただき、今後も楽しんでいただける地域の恒例行事となるよう継続していきたいと考えております。次回も楽しみにしてください。

○「瀬古ふれあいセンター平成会館」エアコン更新工事

10月20日～22日にかけて、瀬古平成会館２階エアコン更新工事を行いました。工事期間中は大変ご迷惑をお掛けいたしました。今後も会館利用者の快適な環境をつくり、安心して多くの方にご利用いただけるよう、設備・備品の維持管理を適宜行っていきます。

PICKUP!!

地域貢献！　御器所駅自転車整理＆ゴミ拾い

光和寮では、毎月第３火曜日は昭和区自転車駐車対策推進協議会、昭和土木事務所、御器所東地区自転車駐車対策協議会の方々と、地下鉄御器所駅付近の放置自転車の整理を行ったり、歩道や路地裏のゴミ拾いを行っています。

そのほか、入居棟近くの公園を町内の当番で掃除をするなど、地域に貢献をしています。（写真は昭和区役所前での放置自転車に対して赤い警告札を巻いているところです）

障害者作品即売会
「福祉の店」開催！

今年で35回目となる障害者作品即売会「福祉の店」が、約１ヶ月間に渡り、県内５会場にて開催されます。

「福祉の店」は、障害のある方が日ごろの訓練を活かして制作した製品や、長年培ってきた経験や技能を活かした作品を展示即売することにより、生産活動を通じて社会参加への意欲を助長し、自立を促進するとともに、県民の障害のある方に対する理解を深めることを目的としています。また東北被災地復興支援を目的として実施する「がんばろう東北」販売会も同時開催されます。

ぜひとも足をお運びください。

２月24日（火）～３月２日（月）	イオンモールナゴヤドーム前
３月５日（木）～３月10日（火）	西尾おしろタウンシャオ
３月６日（金）～３月12日（木）	イオン豊橋南店
３月９日（月）～３月13日（金）	イオンモール扶桑店
３月17日（火）～３月19日（木）	金山総合駅コンコース特設会場

お問い合わせ：一般社団法人　愛知県セルプセンター　TEL：052-201-1147